裁判員等経験者との意見交換会を行いました

令和7年2月20日、裁判員等経験者5名と法曹三者（裁判官、検察官、弁護士）との意見交換会を行いました。

今回は、「職務従事期間が長期に及ぶ事件の審理等の在り方」をテーマに、主に2か月程度の期間、裁判員等を経験いただいた方に、ご意見やご感想を伺いました。

●分かりやすい裁判にするためにはどうしたらよいですか？

情報量が多いので、検察官、弁護人には、事件の全体像や流れを分かりやすく示しながら、主張・立証活動をしてほしい。

起訴された事実や争点が多い事件で、全事件をまとめてではなく、事件ごとに分けて、審理や評議をして裁判を進めるやり方は、分かりやすかった。

事件発生から裁判まで時間がかかりすぎている。証人や被告人の記憶があいまいなところが多く、とまどった。

証言の中の登場人物が多かったり、話の場面が飛んだりして、混乱した。証人への質問の意図が分かりにくいと頭に残らない。法廷のモニター画面に「人物関係図」などを常時映しておいて、それを見ながら証言を聞くことができたら、より分かりやすくなると思う。

●評議で、十分議論ができましたか？

評議の時間は長かったが、いろいろな角度から意見を出し合うことに意味があると感じた。

裁判官が裁判員の自然な議論の流れに寄り添ってくれたので、自然な流れで議論をして、チームとしての結論を導くことができた。

法廷でよく分からなかったところも、裁判員や裁判官と一緒に確認し合うことで、疑問を解消することができた。

裁判官が口の重い裁判員にも公平に発言を促してくれたので、議論が深まった。裁判官は、議論を誘導することはなく、裁判員の考えがまとまっていなくても、根気よく聴いてくれた。

●これから裁判員になる方へのメッセージをお願いします。

裁判に参加するのは、ドラマの中に入ったような感じがした。事実をあらゆる方面から検討して判断するということは非常に大切なことだと感じた。

とても貴重な体験をさせてもらった。ニュースを見る目が変わった。機会があれば、裁判員を経験してみた方がよいと思う。

証拠が足りなければ有罪にできない、ということが理解できるようになり、裁判に関する報道に対して、今までの自分にない考えを持つことができるようになった。会社の理解があって参加することができたので、そういう会社が増えるよう、国ももっとサポートしてほしい。

自分が世の中を構成する一員なんだと実感することができた。自分の考え方のくせに気づき、社会に対する物事の見方が変わった。

司会裁判官

経験者の皆様のご意見をうかがって、法廷で事件の流れや全体像を、分かりやすく示しながら裁判を進めることが重要だと改めて感じました。また、事件発生から裁判まで時間がかかりすぎているとのご指摘を重く受け止める必要があると考えます。いただいた多くの貴重なご意見を今後の裁判に生かしてまいります。ご協力いただき、ありがとうございました。